



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

日赤あいち

No.154



2023. 春

CLOSE UP

いざという時、共に助け合う力を高める

TOPICS

▶日本赤十字社愛知県支部 令和5年度事業計画と予算の概要

▶クロスサポーターに聞く!! 株式会社 名古屋銀行

赤十字は、動いてる!



Japanese Red Cross Society

SAVE365

5月は
赤十字運動
月間です

皆さまのご協力をお願いいたします

広報誌

Cross Supporter

株式会社 名古屋銀行

営業企画部 舟戸 浩 様、秋本 亜由美 様

活動内容

名古屋銀行は愛知県を中心に店舗を展開し、「未来創造業」を掲げ銀行の枠を超えてお客様の課題・要望に応じています。チャリティーコンサートの開催等による活動資金への協力や、日赤愛知県支部と民間企業の間で初となる「遺贈寄付に係る遺言信託業務に関する協定」を締結し、赤十字の活動を支援しています。



日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

クロス
サポーターに
聞く!!



お客様の想いを地域社会の繁栄につなぐ社会貢献

▼株式会社 名古屋銀行様は、チャリティーコンサートをはじめ様々な取り組みを通じて、社会貢献活動をされています。その背景や想いをお聞きました。

○社是に基づく地域社会への貢献
当行は「地域社会の繁栄に奉仕する」を創業以来の社是としており、地域金融機関として地域の発展とともに歩み、お客様に信頼・支持いただける銀行を目指しています。この理念に基づき、地域の皆様・地域社会のお役に立てよう社会貢献活動を行っています。たとえば、チャリティーコンサート等の売上金を日本赤十字社愛知県支部様や中部善慈銀行様へ寄付したり、東山動物園様に動物のえさ代等として協力を提供させていただくといった、地域に根ざした社会貢献活動を行っています。

日本赤十字社様への継続的な寄付は、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、将来的に発生が想定されている南海トラフ地震への備えや国内外の災害への対応、戦争や食料危機などの海外で苦しむ人を助けるための活動など、多岐にわたる活動を支援することで地域の皆様ひいては世界中の人々への貢献に繋がるとの想いから行っています。

○お客様の想いを社会貢献に繋ぐ
当行が毎年開催しているチャリティーコンサートは、お客様



名古屋銀行
マスコットキャラクター
うさぎ支店長

からの声をいただき有償で開催してチケット売上金を全額寄付するようになったという経緯があります。また、日本赤十字社愛知県支部様と結んだ「遺贈寄付に係る遺言信託業務に関する協定」も、「資産を地域や社会のために役立てたい」との声をお客様からいただいた、その想いにお応えしたい、との考えから始まっています。遺贈寄付をご検討されている方には、当行へご相談いただき、大切な想いを実現するお手伝いができれば幸いです。

活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ 中西電機工業株式会社 様
- ▶ 株式会社F&Cホールディングス 様
- ▶ 中京プラントサービス株式会社 様
- ▶ 一般社団法人日本アルミ鋳造会 様

PRESENT

ハートラちゃん
オリジナルふせん

10
名様

カバーに日本赤十字公式マスコットキャラクター ハートラちゃんが描かれているオリジナルふせんです。中身のふせん紙は無地の薄黄色・水色・桃色の3色です。今回は3色セットでプレゼントします。



Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

Fax : 052-971-1586

郵 送 : 〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など

締切/令和5年6月30日必着

日本赤十字社 愛知県支部
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)

発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和5年4月1日

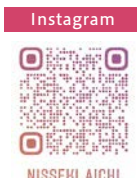


活動の詳細や最新情報はウェブサイトかSNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



NISSEI.AICHI



令和5年度事業計画と予算の概要

令和5年度における日本赤十字社愛知県支部の事業計画および一般会計歳入歳出予算についてご報告します。

事業計画の概要 (主な事業の抜粋)

◆災害救護事業と救護看護師の養成

大規模災害や豪雨災害などの災害に対して迅速かつ適切に医療救護活動を行うため、救護員等の更なる養成に努めます。さらに、近隣の支部と広域支援体制を確立し、行政を始め関係機関との連携強化を積極的に推進してまいります。また、日本赤十字豊田看護大学において、災害救護活動に対応できる幅広い知識と技術を備えた優秀な看護師の養成を行ってまいります。

◆救急法や健康生活支援講習等の普及

本格的に対面式の講習を再開するとともに、コロナ禍において開催できていなかった学校における水上安全法の講習を再開します。また、多文化共生の取り組みとして「やさしい日本語」による講習を実施するとともに、外国にルーツのある講習指導員を養成してまいります。

◆赤十字ボランティアの活動と育成

地域奉仕団が地域の関係団体と協力して実施する子ども食堂等の取り組みを支援するなど、社会ニーズ及び地域課題に対応できるボランティアの主体的な活動を推進してまいります。

◆青少年赤十字の育成と普及

学校教職員及び教育行政機関の理解と協力を得ながら、リーダーシップ・トレーニング・センターの開催、防災教育等各種事業を推進します。また、コロナ禍のため対面で開催できていなかったモンゴル赤十字社との国際交流を再開し、メンバーの受入を行うなど国際親善事業を推進してまいります。

◆社会福祉事業

行政、企業、他団体と連携し地域で必要とされている社会活動を展開していきます。加えて、地域における多文化共生の新たな取り組みを、行政と連携して実施してまいります。

◆血液事業の普及と啓発

県内の医療機関からの要請に応え、より安全で良質な血液製剤を安定的に供給するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進や、将来の献血を支える若年層への理解促進を図るための献血推進広報を積極的に実施してまいります。

◆国際的な活動

世界各国・地域の赤十字・赤新月社が実施する災害対策事業や保健医療支援事業等への資金協力をします。また、日本赤十字社の国際医療救援拠点病院に指定されている日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて緊急の救援要請に応えられる体制整備に努め、発災直後の緊急支援から中長期にわたる復興支援や開発途上国における保健医療支援に取り組みます。

◆赤十字病院救急医療体制の整備

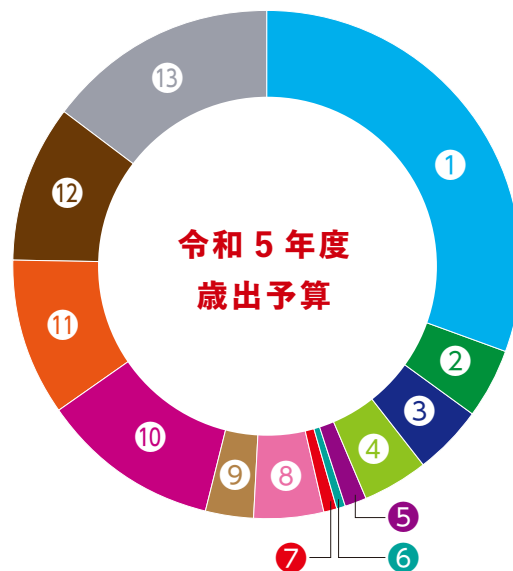
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の両病院が災害時には医療救護活動を、平時は地域の中核病院として、救急医療、高度医療及び災害医療などの分野における機能強化を図り、地域のニーズに応じた医療の提供に努めてまいります。

一般会計歳入歳出予算の概要

歳 入			
内 訳	予算額		
社資収入	1,092,000,000 円	89.1%	
委託金・補助金及び交付金収入	11,767,000 円	1.0%	
資産収入・雑収入	21,499,000 円	1.7%	
前年度繰越金	100,507,000 円	8.2%	
合計	1,225,773,000 円	100.0%	

歳 出			
内 訳	予算額		
①災害救護事業と救護看護師の養成に	375,763,000 円	30.7%	
②救急法や健康生活支援講習などの普及に	55,026,000 円	4.5%	
③赤十字ボランティアの活動と育成に	53,840,000 円	4.4%	
④青少年赤十字の育成と普及に	50,390,000 円	4.1%	
⑤社会福祉事業などに	18,936,000 円	1.5%	
⑥血液事業の普及と啓発に	5,193,000 円	0.4%	
⑦国際的な活動に	10,684,000 円	0.9%	
⑧活動資金募集のために	56,606,000 円	4.6%	
⑨赤十字の普及・広報活動のために	36,258,000 円	3.0%	
⑩赤十字病院救急医療体制の整備に※	140,012,000 円	11.4%	
⑪市町村における赤十字活動に	121,400,000 円	9.9%	
⑫全国的な赤十字活動に	120,900,000 円	9.9%	
⑬支部の運営に	180,765,000 円	14.7%	
合計	1,225,773,000 円	100.0%	

※使途が指定された活動資金による事業を含みます。



※事業計画の詳細については、日本赤十字社愛知県支部ウェブサイトでご覧いただけます。

2023年トルコ・シリア 地震救援金を受け付けています

名古屋市内で奉仕団による街頭募金を実施

2023年2月6日(月)に発生したトルコ南東部とシリアとの国境付近を震源とする地震とその余震により、トルコ、シリア両国で多数の死傷者が報告されています。

こうした事態に対し、日本赤十字社では『2023年トルコ・シリア地震救援金』を受け付けています。

愛知県支部でも、支部事務局を始め県内赤十字施設で救援金を受け付けています。また、3月11日(土)には名古屋市内で赤十字ボランティアによる街頭募金を実施しました。



稲沢市 令和5年国府宮はだか祭

臨時救護所を開設し、お祭りを支えています

愛知県支部では、祭礼や地方公共団体の行事など多数の人が集まる公益的な行事やイベントに救護員を派遣し、不慮の傷病者の救護を実施しています。

2月3日(金)に稲沢市で開催された令和5年国府宮はだか祭では、3年ぶりに「もみあい」が復活しました。お祭りの参加者や見学者など訪れた方への応急手当を行うための臨時救護所もコロナ禍直前の令和2年以来3年ぶりの開設となり、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の救護班と支部職員、尾張赤十字救急奉仕団が協力して救護活動を実施しました。



令和4年度 全国赤十字救護班研修会

本社・第3ブロック共催で 日赤愛知災害管理センター棟にて実施

令和5年2月11日(土)～ 2月12日(日)に、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の日赤愛知災害管理センター棟にて「令和4年度全国赤十字救護班研修会」が開催されました。

中部北陸各県の赤十字施設から集まった医師・看護師・事務職員等を対象に、災害発生直後の急性期から長期にわたる救護活動に対応できる救護班要員の育成を目的として、日赤内外の関係機関との連携を図り災害時の医療ニーズに対応できるよう実践的な演習を実施しました。



赤十字運動月間2023

5月は赤十字運動月間です

日本赤十字社の前身である博愛社の創立記念日が5月1日であることと、赤十字の創始者の1人であるアンリー・デュナンの誕生日が5月8日であることから、日本赤十字社では毎年5月を「赤十字運動月間」として、赤十字の理念や活動へのご理解とご協力を呼びかけるPR活動を全国的に展開しています。

愛知県でも県内各地での赤十字ボランティアによる呼びかけ活動や、4月下旬には名古屋グランパスエイトを始めパートナーシップ協定を結んでいるスポーツチームの試合会場でのブース出展、ホームページや公式SNSでの情報発信などを通じ、愛知県内での赤十字の活動をPRしていきます。皆様からの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

赤十字は、 動いてる!

SAVE365

「SAVE365」は、災害発生時に、被災者や被災地へ、迅速に支援物資や医療物資を届けるための活動です。赤十字は、災害発生時に、被災者や被災地へ、迅速に支援物資や医療物資を届けるための活動です。



「災害への備え」では、座学で災害の特徴や身を守るためにどうすればよいかを学びます。

「災害エスノグラフィー」は過去にあった大災害の体験談を読み、時間経過とともに変化する災害時の状況を追体験し、災害を具体的にイメージします。

個人で読むだけでなく、思ったこと、気づいたことをグループで話し合います。



最後の発表の様子です。地図上には様々な書き込みやたくさんの付箋・シールが貼られ、たくさんの気づきがあったことがわかります。



地域の防災力を高める 赤十字防災セミナー

地域の防災・減災を進めるうえで重要なのが地域のコミュニティにおける自助・共助の力です。赤十字防災セミナーでは、自治会・町内会などを対象として災害発生時の被害や避難生活について具体的にイメージしながら、命を守り暮らしをつなぐ方法を地域に密着した形で学ぶことができます。

愛知県支部では、このセミナーを広めるため、まずは赤十字奉仕団や自治体職員に知っていたいただくことを目的に赤十字防災セミナー体験会を2月28日に開催しました。今後もこのような体験会の開催や、地域で指導者を担う人材の育成を行い、県内各地域で赤十字防災セミナーを広めていく予定です。

「災害図上訓練(DIG)」は地図を使って、危険な箇所を書き込んだり、役場や駅、学校等にシールを貼る作業を協力して行い、災害のリスクや防災上の資源を可視化します。今回は県内各地から集まっているため自分たちの住む地域ではありましたが、実際には防災セミナーを行う地域の地図を使って行います。



参加者に感想をお聞きしました。

防災・減災について考えるきっかけや、意識の底上げにつながる内容なので、機会があれば防災に関係する部署だけでなく様々な人が受けられるよう広げていけたらと思います。
(田原市防災対策課 樽谷さん)

災害エスノグラフィーは具体的に状況をつかむことができ、どのように取り組めば良いか知ることができました。図上訓練では自分たちの地域でやれば、地域の防災の課題を整理したり見落としていた危険に気づけると感じました。
(田原市赤十字奉仕団 杉浦委員長)



樽谷さん 杉浦委員長



災害時に活動できる赤十字ボランティアの養成

県内各地で活動している赤十字奉仕団員が、災害時に赤十字防災ボランティアとして救護班のサポートや避難所での炊き出し等の救護活動を行えるよう、愛知県支部では平時から研修会等を開催しています。たとえば、2月15日には県内各地の地域赤十字奉仕団で防災に関するリーダーを担う方を対象に、最新の知識や技術を身につけていただき、各地域の奉仕団での研修等に役立ててもらうことを目的とした「赤十字防災ボランティア地区リーダーフォローアップ研修」を開催しました。



炊き出しの図上演習では、炊き出しの際に気を付けるべきことを座学で再確認し、衛生的かつ効率的な炊き出し運営ができるよう、グループで意見を出し合い、図上でのシミュレーションを行いました。



テント設営方法の再確認や、愛知県支部が各市町村からの要望に基づき配備している避難所用の救護資機材の使い方の説明、運用開始に向け準備を進めるキッチンカーの見学など、知識・技術のアップデートを行いました。

